

日時 令和6年7月16日(火)

午後7～9時

場所 松本市役所3階 第1応接室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 委員長聞き取り中間報告

- 市民や学校施設の関係者からは「人材が不足している」との要望が強いのにに対し、林業関係者からは「現状維持」で十分だという意見が多かった。この認識の差をどう調整するかが今後の課題であり、ビジョンに反映させるための慎重な調整が必要である。
- 学校における森林教育の進行には、熱心な教師の異動によって活動が途切れる属人的な問題もあるため、組織的な仕組み作りが求められる。学有林など学校内に森林関連の環境があっても、教師に十分な知識がない場合も多く、教育委員会や森林・環境教育分野の専門家と連携して、学校での活動をサポートする仕組み作りが重要である。
- 今後は観光分野や松枯れ被害材を利用したギター製作会社などに聞き取りに行く予定。

2 まつフォレ#10フォーラム開催結果報告

- フォーラム参加者からの感想として、「子ども未来委員会の提言が具現化される道筋が示されたことが感動的だ」との意見が紹介され、ビジョンに「年度をまたぐこと」や「所管部局をまたぐこと」をキーワードとして盛り込むことが重要である。
- 推進体制については、直接的なアクションを起こす人材よりも、アクションを起こす人材を繋げるコーディネーターや、イベント企画者に力点を置いた組織体制が重要である。

3 森林長期ビジョンの素案について

- ビジョンを開いた時に最初に目立つ位置に松本の森林の将来像を示すイラストを配置してはどうか。インパクトを与えるために、イラストや簡潔な表現を意識した方が良い。
- 表紙タイトルを「Matsumoto Our Forest」とし、「松本市森林長期ビジョン」をサブタイトルとする案が出された一方で、その逆の意見も出された。
- コラムについては、森林環境税、フォレスターの職業紹介、市民向けの森林に入る時の服装やマナー、松枯れの仕組みなどが提案された。

4 まつフォレ#11イベントについて

- 参加者が子ども未来委員会のメンバーとその保護者であるため、早急に日時と場所を案内した方が良い。
- 必要な講師（昆虫や鳥に詳しい人、工具の使い方を教える人、料理指導者）を確保し、具体的な時間帯の設定や内容を早急に決める。

議事録要約

1 委員長あいさつ

(三木委員長)

遅い時間帯にご参加いただきお礼申し上げます。ビジョンの素案も今日の資料に含まれており、だんだんと形が完成に近づいてきて、重要な局面に入ってきたかと思う。また、今後の活動に向けた仕組みを整えていくのも、これから私達に求められる重要な点と認識している。本日も活発な議論をよろしくお願いいたします。

2 会議事項

(1) 委員長聞き取り中間報告

(三木委員長)

議事次第の4つの議題について少し順番を変え、まず(4)委員長聞き取り中間報告から始めさせていただきます。

※資料4の説明

(小山委員)

説明をお聞きした印象として、すごくシンプルに意見が別れたかと思う。個人や学校施設といった一般市民目線の方々からは、単純に「人材が不足している。もっと何とかしてほしい」という要望が非常に強いものに対して、林業関係の方々からは「現状維持で良い」という意見が多くを占めている。ビジョン策定に際しては、林業現場に対してもう少し色々な対策を取るべきではないかという意見もあったと思うが、現場の認識とは少し違っているような印象を受けた。こういった点をビジョンにどう反映させていくか、慎重に交通整理をした方が良いのではないだろうか。

(三木委員長)

なるほど。現状を維持するのも大変ということなのかもしれない。

(小山委員)

そういう意味だとすれば、現状維持をゴールとしてビジョンを設定するという方向性も考えられる。一方で、市民の方はプラスアルファを期待しているように受け取れるので、この双方の認識の差を埋める作業が必要かもしれない。決して現状維持が悪いということではないと思う。

(三木委員長)

今後は観光分野で1名と松枯れ被害材を利用したギター製作会社に行き取りに行く予定である。この他にも地域で活動されている方々にビジョンのことを知らせると同時に、これからの活動をサポートしていただけるような仲間を増やすという点でも、色々聞きに行きたいと思っている。他にも聞き取り先の候補があれば、教えていただければと思う。

(小穴委員)

今回聞き取りに行かれた筑摩小学校の他にも、本郷小学校でも森林に関する活動をされていると聞いたことがある。こういった学校同士がお互いに交流してもらえたら、ありがたいと思う。

(小山委員)

小穴委員のご提案は、ビジョンの策定後に市民会議が活動していく中で取り組んでいく内容になってくると思う。

(三木委員長)

四賀地区の聞き取り結果の箇所でも書いておいたが、会田中学校では学有林にモミジを植えるといった活動をされている。結構学校内に子供が使える木が生えているとか、学有林とか公有林のような環境が隣接している学校が多分あると思う。一方で、そういった環境はあっても、その学校に赴任されて来られた先生方には森林の取り扱いに関する知識はほとんどないということが多くと思われる。そのため、小学校や中学校を管轄する教育委員会などと森林分野や環境教育分野の方々とをうまくマッチングしていくようなことを、これからの市民会議の活動の中で出来ると面白いのではないかと思う。

(小山委員)

また、森林に関して関心のある先生がいる間は活動は進むが、その先生が別の学校へ赴任してしまうと活動が途切れてしまうということも学校現場ではよくある事例なのだと思う。このような課題に対して、属人的ではなく組織として仕組みを構築していくことが必要だろう。

(2) まつフォレ#10フォーラム開催結果報告

(三木委員長)

次の議題の「まつフォレ#10フォーラム開催結果報告」に進むこととする。事務局から資料の説明をお願いしたい。

(環境アセスメントセンター)

※資料1の説明

(小山委員)

18ページの参加者からの感想にある「子ども未来委員会のみなさんの昨年度の提言が具現化される道筋が、この場で示されたことには感動を覚えました。年度をまたいで、所管部局をまたいで、子どもの権利が守られ行使された瞬間に立ち会えて嬉しかったです。」という感想は非常に重要だと思う。ビジョンの中には、「年度をまたぐこと」、「所管部局をまたぐこと」についてキーワードとして織り込んでほしい。

(三木委員長)

子ども未来委員会は子供の権利条約に基づく組織であるため、当初は教育委員会関連の組織なのかなと思っていたが、実は、松本市の場合はこども育成課の管轄となっている。その部署が森林と関連することをやるというのも、普通では考えつかないことかと思う。今回それが実現できそうだというのは、私としては非常に興味深い。

(渡辺委員)

21 ページに、WEB アンケートへの回答として「まつもとフォレストを法人化し、新卒や中途採用者を雇用するまで発展することはあるのでしょうか。」とある。私も人材の育成についてはもっと上手に伝えられたらいいなと思っており、例えば森林整備のボランティアを増やしたり、職業として森林に携わる担い手を育てる部分も丁寧にビジョンに書き込めればと思う。

(小山委員)

要するに、推進体制をどのように構築していくのかということなのかと思う。ビジョンの中に書き込む推進体制として、具体的に組織をどのような形にするのか、どのような人材を含めるのかということになるか。この点に関してはいくつかの考え方があると思うが、先ほど小穴委員が言われたような学校での特定の教諭による属人的な活動のあり方の見直しや、渡辺委員が言われたようなどちらかというと専属のプロを育成するという方向性もあるであろうし、こういった人材が必要なのかということは今後考えなければならない。そのタイミングが今すぐなのか、それともビジョンを一旦作った次の段階になるのか、その点も整理しておいた方が良さそう。

(三木委員長)

ビジョンに書き込む推進体制としては、直接森林に対して何かアクションを起こす仕組みを考えるとというより、アクションを起こす人材を繋ぐコーディネーターだとか、森林に関するイベントを企画立案して運営していく人達の組織体制を考えるとということかと思っている。こういった調整役や企画を立てる人は、このためにある程度時間を確保できて、こういった作業に慣れた人ということになるのかと思う。

(小山委員)

個別具体の事例対応は次の段階で、先ほど小山委員が話されていた先生同士を繋げるというような取組みは、今の段階では難しいと思う。

(三木委員長)

「地域おこし協力隊」のような制度を利用するなど、やり方自体は色々あると思うが、ビジョンとは少し分けて考えた方が良く思う。今後の体制作りという点で引き続き議論していくと良い。フォーラムで出てきた意見を今後のイベントに繋げていける見込みが付いたというのは、かなり大きな成果だと思う。

(3) 森林長期ビジョンの素案について

(三木委員長)

それでは次の議題に進みたい。資料2を見ていただければと思う。

(市)

前回第2回の運営委員会で協議していただいたことを踏まえ修正している。さらに先週正副委員長打合せがあり、その打合せで指摘された点についても修正してある。これを踏まえ改めて今回ご協議いただきたいということになるが、このビジョン素案については概ね来週7月26日までに完成させる予定でお願いしたい。詳細については環境アセスメントセンターから説明いただく。

(環境アセスメントセンター)

※資料2-1、資料2-2の説明

(三木委員長)

まずスケジュールの確認をしたい。市役所の会議にかけるためのビジョン(素案)をいつまでに作成しないといけないのだろうか。

(市)

7月26日までは作成いただきたい。

(三木委員長)

そうすると、今週の金曜日までには細かい修正も含めて意見を集約しなければならないと思われる。それを踏まえてご意見頂ければありがたい。

(小山委員)

ビジョンを開いてすぐの位置には、目次ではなく20ページと21ページの内容を入れてみてはどうか。21ページのイラストをベースにして、そこに20ページにある5つの将来像が散りばめられているイメージである。まずビジョンを開いてすぐに一番伝えたい森林の将来像を端的に分かりやすく載せたいと思った。20~22ページの3章の内容については、よく読むと同じことが3回繰り返されている。とすると、20~21ページの概要的な内容は先頭に持ってきて、詳細内容に当たる22ページを今の位置に残しておけば収まりが良いのではないだろうか。それから、34~35ページの5章「将来像をふまえた松本市の未来の森林とは」については、先程の5つの将来像が奥山エリア、里山エリア、市街地エリアのどれに該当するのか当て込んでみてはどうだろうか。例えば、奥山であれば「3. 来訪者を迎える景観、自然を守り育てる」や「4. 市民のくらしを支える森を守る」が、里山エリアであれば「1. 市民のくらしの中に森林とのふれあいを」や「2. 市民のくらしのなかに地域の木材を」などが、市街地エリアであれば、今上げた1、2、3などが該当するだろう。こういうふうに考えていくと、それぞれのこの5つのテーマが3エリアのどこに反映されてくるかをうまく整理でき、すっきりするのではないだろうか。一旦それで整理してみて、より突っ込んだ検討は市役所の会議が終わった後という流れにすれば、

26日までにも間に合うのではないだろうか。

(三木委員長)

小山委員が言われるように、やはりビジョンを開いてすぐにイラストで松本の森林の将来像を示して、読み手である市民に強いインパクトを与えた方が良いだろう。突飛な構成かもしれないが、冒頭の見開きページにあるイラストを見てもらうだけでも効果はあるだろう。それから、分量的なことで考えると1章はもう少しコンパクトにまとめた方が良いように思う。

(小穴委員)

表紙の写真について、乗鞍岳や松本城の説明などを入れてみてはどうだろうか。

(三木委員長)

表紙の写真に直接説明を書き込むというよりは、表紙を開いて裏側のページなどにそういった説明や撮影場所を入れてみるなどの工夫はできると思う。完成時の配慮事項として検討したい。

(香山委員)

5章で取り上げている、いわゆるゾーニング的な考え方をこのビジョンの中でどこまでどういった形で表現するかということに関して、松本市で奥山というと「あの辺りかな?」とかイメージは色々あると思う。実際には、例えば美ヶ原も奥山の要素があるし、一方で、多くの人々が奥山と認識する乗鞍エリアでも、人が住んでいる場所では里山の要素も含まれている。こういった事象があるため、このビジョンではゾーニングと実際の地名を紐付けない方が良いのではないだろうか。奥山、里山、市街地の森林にはどういった機能や役割があるのかということに留めて、実際にどの場所が該当するかはそれぞれの市民が暮らしの中でイメージして考えていくという方が良いのではないかという気がしている。例えば、代表的な奥山、里山、市街地の森林の写真が載せてあるのは良いと思うが、敢えてその写真に撮影場所のキャプションを入れない方が良いというのが私の感覚である。

(三木委員長)

確かに安曇地区とか奈川地区とか一般的に奥山と認識される地区でも、人が住んでいればそこは市街地であるし、その周辺の山は里山である。あまり地区の区分と奥山・里山・市街地の区分は結びつけない方が良いと思う。

(渡辺委員)

私からは2点ある。1つ目は表紙のタイトルについてで、7月26日の提出の際には、タイトルの後ろに「(仮)」とでも入れていいものだろうか。26日まで焦って決めるというよりは、26日までではとりあえず仮にしておいて、もう少し議論したい。一つ私からの案として、今までイベントやフォーラムでも使ってきた「Matsumoto Our Forest」はどうだろうか。これまでイベントやフォーラムを重ねてきて、このフレーズを知って下さった方々もいると思うので、この

「Matsumoto Our Forest」はビジョンのタイトルとしてどうかと思っている。サブタイトルとして何かもう少し付け加える文言も検討してみてもどうかと思った。2 つ目はコラムについて、私が一番載せたいのがまず森林環境税に関する事で、松本市の広報誌にも森林環境税のことが触れられていて、市民も関心度が高い分野だと思う。「森林環境税ってこういうことだよ」とか、「こういうことに使ってほしいから市民の声を上げてください」など、何か未来に繋がるような内容のコラムが作れたら良いという希望である。他には「フォレスター」という職業の紹介ができないだろうか。すぐにはフォレスターになる人が増えるわけではないと思うが、将来の進路の選択肢として、こういった職業もあるということが紹介できたらと思う。

(三木委員長)

表紙のタイトルは差し当たって「(仮)」で良いと思う。現状で表紙に記載してある「松本市森林長期ビジョン」というタイトルは無味乾燥かもしれないが、私としてはこのビジョンがどういった位置付けの資料なのかを端的に示す文言がタイトルに来て、「Matsumoto Our Forest」はサブタイトルとして位置付けた方が後々扱いやすいのではと思う。このあたりは皆さんでご議論いただきたい。コラムに関しては、ビジョンのどこに入るのかという点がまだあやふやで、ビジョン本編に入れるのか、それとも解説コーナーのような形でアンケート結果とともに資料編に入れる方がいいのか、検討する必要がある。

(環境アセスメントセンター)

松本市の森林を取り巻く現状に関するトピックであったり、ビジョンで描いた取組みの中身であったり、他には専門用語的なものであったり、これら全てを載せることは難しいかもしれないが、いくつか「これは松本市民に是非知ってもらいたい」という事柄を取り上げて、スペース調整としての役割も兼ねながらコラムをまとめられればと考えている。

(三木委員長)

ビジョンが完成し運用していく段階になっていくと、スピノフ的に新たに取り組まなければならない内容や課題が派生してくると想像できる。そういった状況が発生することを見越して、今からビジョンを運用していく仕組みや組織を考えた方が戦略的である。また、ビジョンに対するレスポンスが常に発生し、それに対応していくようにすれば、ビジョンは常に機能し更新し続けることになり、最初の段階から完璧な内容を目指す必要もないと思われる。

(三木委員長)

ビジョンの中では、なるべく専門用語は減らした方がいいと思うが、どうしても書かなければならない専門用語については、コラムという形を取るかどうかは別として、説明は必要であろう。コラムのボリューム感をどの程度に設定するかで結構イメージが変わってくると思う。

(小山委員)

素案が出来上がった段階でどの程度の空きスペースがあるか分かってくるので、そのスペースに合わせて検討しても良いのかもしれない。また、市役所での協議の中で詳しく取り上げて

ほしいことの要望があれば、その要望に関するコラムを検討したり、先ほど渡辺委員が言われたように、森林環境税のようにこちらから市民に対する発信として是非出しておいた方が良い内容があれば、それを取り上げるのも良い。

(環境アセスメントセンター)

「これは入れたほうが良い」というものがあるのであれば、早めに決めておいた方が準備はしやすいと考え、資料 2-2 をコラム（案）として作成し今ご相談している次第である。確かに 100 字程度の内容で良ければ事前準備やご相談も必要ないかもしれない。ただ、ビジョンの中で松本市民にどうしても知ってほしいことや理解を深めてほしいことについては 100 字程度では難しく、例えば 1 ページなどそれなりの分量になると想定されることから、そういったコラムを作るのであれば事前に決めておきたい。

(三木委員長)

ビジョンの内容を理解するために必須の説明なのだとしたら、コラムとして扱うのではなく本文の一部として書くというふうに区別した方が良いのではないか。本編の箸休めとして空きスペースを埋めるとか、資料編のところでちょっと面白いことを書くとか、そういった位置付けではないだろうか。

(環境アセスメントセンター)

本文に組み込むのでもコラムとして扱うのでもどちらでも良いが、市民に対して是非訴えたいことがあるのであれば、それは現段階で整理して執筆を開始した方が良いと思う。

(渡辺委員)

表紙のタイトルについては、三木委員長の意見も確かにその通りであると思いつつ、私としてはいかにも市役所が作った行政文書的なタイトルよりは、手に取った松本市民が親しみを持って読んでもらえるよう、安芸市のような形で「ブルーフォレスト・ブルーオーシャン」の下に「〇〇構想」といったような形が良いと思う。イメージ的には「Matsumoto Our Forest」が最初に来て、その下に「松本市森林長期ビジョン」のようにすれば、両方の要望が叶えられるのかと思う。それから、このビジョンで扱う市民は具体的にどういった方々を指すのか、その定義をビジョンの中に盛り込んでほしい。

(三木委員長)

ビジョンの冒頭に、「市民とは」の他にもこのビジョンで扱う「森林とは」といった定義も必要になってくるだろう。ビジョンで扱う松本市の森林は一般的な認識と違ってくる部分もあって良いと思う。

(香山委員)

推進体制にも絡むことでこのビジョンの位置付けにも関連してくるのだが、このビジョンを策定するきっかけは 4 年前に専門家による「松枯れ対策会議」があり、その会議での提言とし

て「市民による会議を作る」ということが盛り込まれた。これを受けて2年目の実行会議ではどのような市民会議を作ったらいいのかという点が話し合われた。その結果としてこの市民会議がある。このあたりの繋がりというか経緯を踏まえてほしい。また、この松枯れ対策会議では行政フォレスターを推進体制の中に配置するという事も提言された。この翌年くらいには松本市森林環境課の方で行政フォレスターの配置に向けて準備しているような話もあったが、それきりになっている。現時点でどこまで進んでいるのかはさておき、最初の専門家会議での提言があって、そこからどういう流れでこの市民会議が結成され、このビジョン策定の流れに繋がっていくかということは、はっきり位置付けておいた方が良いのではないだろうか。その上で、推進体制について最終的にこのビジョンの中でどこまで書き込んでいくのか検討する必要がある。今週中にできることとしては、推進体制の内容について、既存の組織だけでなくこのビジョンの中で提案される新しい推進体制を検討していくという点は書き込めると思う。

(大田副委員長)

コラムについて、一般の市民が山に入る時の服装や守るべきマナーのような話があると、市民にとってはありがたいのではないだろうか。このビジョン(素案)の中では現状では林業従事者の服装や機械については書いてあるが、もっと市民目線の視点からも書いても良いのではないかと思う。また、松枯れの仕組みは是非入れてほしい。松枯れのことを知らない市民にとっては、その仕組みを正確に知ることで、どのような対策が必要で有効なのか納得しやすいと思う。ビジョン(素案)については、21ページにビジョンの推進により目指す松本市の姿として「他地域の人々があこがれる街・環境になる」ということが書かれているが、市民以外の目線で憧れる街というのは正直必要なのかという疑問がある。松本市に住んでいる市民が「いいな」と思える将来の姿の方をまず優先してほしい。

(三木委員長)

私に関係者への聞き取りで伺った「こども園」では、1~5歳までの子供を対象に自然の中で遊ぶ基本的な知識を身に付けてもらってから森の中に入るそうである。例えば「ハチがやってきたらお地蔵さんになって」と教えるそうで、ハチを見たらすぐに反応するのではなく、お地蔵さんのようにしばらくじっとしていることを教えてから森に入るそうである。ビジョンの中でコラムとして「森に入る時の服装やマナー」について触れられていると、子供だけではなくあまり森の中に入ったことがない大人にも役立つ情報であろう。松本市外からの視点についてどう考えるのかというのは確かに重要な点で、テーマ3でも「来訪者を迎える景観、自然を守り育てる」となっていて、確かに松本市は観光都市であり、来訪者の中には将来市民になる人もいるだろうし、関係人口の形で関わる人もいるのは事実である。これは書き方の問題であるが、このままだと来訪者のために森林を作るようにも読めてしまう。どのように書けば一番取りまわりが良いのか悩ましいところではある。

(小山委員)

テーマ3の含意としては、「自分たちが素晴らしいと言えるから来訪者にも憧れられる」ということだと思う。となると、テーマ3に関しては「私たち松本市民が素晴らしいと思えるから」

という意味合いを含めれば良いのではないだろうか。例えば「来訪者にも誇れる景観、自然を守り育てる」というふうにすればどうだろうか。

(三木委員長)

あとは、市役所の中でも多分議論されることと思うが、フォーラムの意見でもあったように、行政担当を超えるような活動についてどのような体制で臨むのか検討する必要がある。それから、各テーマの中の取組み項目をどの程度細かくするのか、書きぶりを統一した方が良いかもしれない。また、ビジョンで描く松本市の森林の将来像は50年後なのか100年後なのかという問題がある。個人的には100年後は遠すぎてイメージしにくいので、50年後くらいが具体的にイメージしやすいのではないかと思っている。そのほかビジョンに関しては、今週の金曜日ぐらいまでにはメッセージャーやメールで事務局までご意見をお寄せいただきたい。

(4) まつフォレ#11イベントについて

(三木委員長)

では次に、次回のまつフォレ#11イベントについて議論したい。事務局から資料の説明をお願いしたい。

(市)

※資料3の説明

(三木委員長)

まずは日程と場所を確定させたい。今回参加を呼びかけるのは松本市民全体ではなく、子ども未来委員会のメンバーとその保護者ということなので、子ども未来委員会に対してすぐに日時と場所の案内を出した方が良いでしょう。先方にも日程を確保してもらわなければならない。内容については、資料にある案は若干盛りだくさん過ぎて時間が足りないのではないかと心配がある。例えば参加者をいくつかのチームに分けて、秘密基地を作るチームと虫を取るチームといった形で取り組めば、できないことはないかもしれない。

(小山委員)

会場とその付近に川がないので、魚釣りは難しい。何か食べ物を食べる場合には、安全衛生上の観点から子ども未来委員会の了解が多分必要だと思う。会場には飯盒炊爨等の設備があるので利用してもらうことは可能である。

(三木委員長)

あとは時間帯の問題か。設定する時間帯によって実施可能なプログラムは全く変わってくる。あとは講師か。昆虫や鳥がわかる人、秘密基地作りでチェーンソーなど工具の使い方の指導ができる人、適切な料理の指導ができる人などが考えられるか。それと、この中から担当委員を決められればと思うが、いかがか。

(小穴委員)

そもそも、この子ども未来委員会の皆さんからは先日のフォーラムの際私が一番話を聞いていたので、担当委員をやらせていただければと思う。

(三木委員長)

私も担当させていただく。具体的な要項については8月の上旬くらいまでに、お盆前ぐらいには固めたい。やはり1ヶ月ぐらい前にはお知らせした方が良好だろう。これで議事を終了したい。進行を事務局にお返しする。

(市)

長時間にわたりご協議頂きお礼申し上げます。ビジョンについては短い時間で大変申し訳ないが、ご意見等頂けるとありがたい。以上で第3回運営委員会を終了する。